

# 「愛媛県の学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針」の概要

## はじめに、県方針策定の趣旨等

- ・ 少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなってきており、学校や地域によっては存続が厳しく、将来にわたり生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するためには、学校と地域との連携・協働により、速やかに学校部活動の在り方改革に取り組む必要がある。
- ・ Iは、中学生を主な対象とするが、高校生も原則適用。II～IVは公立中学校の生徒を主な対象とし、高校や私学は実情に応じて取り組むことが望ましい。

## I 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を従来の県方針の内容を踏まえつつ示す。

(主な内容)

- ・ 学校の設置者は、国のガイドラインに則り、県方針を参考に、「設置する学校に係る部活動の方針」を策定
- ・ 校長は、学校の活動方針、活動計画及び活動実績を公表
- ・ 学校の設置者は、部活動指導員や外部指導者を配置し、必ずしも教師が休日の指導等に従事しない体制を構築
- ・ 生徒の心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶
- ・ 週当たり2日以上の休養日を設定（平日1日、週末1日）、活動時間は、平日2時間程度、休業日3時間程度とし、合理的で効率的・効果的な活動を実施
- ・ 県、学校の設置者及び校長は、スポーツ・文化芸術団体と連携し、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める。

## II 新たな地域クラブ活動

公立中学校において、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒の活躍の場として新たに地域クラブ活動を整備する必要がある。

(主な内容)

- ・ 地域クラブ活動を行う環境をできるところから整備
- ・ 専門性や資質・能力を有する指導者を確保、人材バンクを整備。将来的には「教員としての身分での休日の部活動指導時間を0とする」ことを目標に、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業の実施
- ・ 競技・大会志向の活動だけでなく、体験活動、レクリエーション的な活動、複数の種目や分野を経験できる活動等、生徒の志向等に適した機会を段階的に確保
- ・ 地域クラブ活動を休日のみ実施する場合も、原則1日の休業日を設定
- ・ 学校施設、公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減や利用しやすい環境づくり
- ・ 経済的に困窮する家庭の生徒への参加費用の支援等の取組を進める。
- ・ 指導者や参加する生徒等に対して、保険加入を義務付けるなど適切な補償が受けられるようにする。

### Ⅲ 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、進め方や検討体制、スケジュール等について示し、できることから取組を進めていくことが望ましい。

(主な内容)

- ・ まずは、休日における地域の環境整備を着実に推進
- ・ 平日における環境整備は、できることから取り組み、平日と休日を一体として取り組む等、地域の実情に応じ、関係者間で丁寧に調整した上で改革を推進
- ・ 生徒の体験格差を解消する観点から、①市町が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体に取り組む体制など、段階的に体制整備を進めることが考えられる。  
※なお、①②のような体制整備が困難な場合、拠点校方式による合同部活動の導入や部活動指導員等により、生徒の活動環境を確保
- ・ 国が改革推進期間と位置付ける令和5年度から令和7年度までの3年間、地域連携・地域移行に重点的に取り組み、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す
- ・ 県及び市町の推進計画の策定等により、学校、保護者等の関係者に対し、分かりやすく周知し、理解と協力を得られるよう取り組む。

### Ⅳ 大会等の在り方の見直し

活動の成果発表の場である大会やコンクール等において、学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の運営の在り方を示す。

(主な内容)

- ・ 中学校等の生徒を対象とする大会等の主催者は、大会参加資格を学校単位に限定することなく、地域クラブ活動や複数校合同チームの会員等も参加できるよう見直す。
- ・ 学校部活動における大会等の引率は、部活動指導員が単独で担うなど、できるだけ教師が引率しない体制を整える。
- ・ 大会等の主催者は、大会運営要員が不足する場合は関係するスポーツ・文化芸術団体等に外部委託するなど、適切な大会運営体制等に見直す。
- ・ 大会等の主催者は、生徒や保護者等の心身の負担が過重とならないよう、開催回数の精選、参加する大会数の上限の目安等を定める等、大会の在り方を見直す。また、誰もが参加機会を得られるよう、リーグ戦の導入や能力別にリーグを分ける等の工夫を行う。